

市職労退職者の会

〈第11回退職者の会バスハイク〉

肥前さが、幕末維新博覧会と 日帰り温泉の旅

市職労退職者の会では、11月17日(土)に恒例の第11回日帰りバスハイクを行います。今回は佐賀市で開かれている「幕末維新博覧会」と佐賀名湯温泉の旅



前号でも紹介しましたが幕末佐賀藩には明治維新で活躍し、近代日本建設に重要な役割を果たした多くの人物・遺産が数多くあります。名君と称

だより
No.45
2018. 10. 5

えられた鍋島直正のもと藩校「弘道館」で学び、明治政府で総理大臣に2度就任した大隈重信や江藤新平(司法卿)、副島種臣(外務卿)などは有名です。また、東京駅を始め福岡市文学館(赤レンガ館)など全国各地に残る日本近代建築の父と呼ばれる辰野金吾や曾祢達蔵近代医学の祖と呼ばれ東大医学部の基礎を創った伊東玄朴、日本初の女性化学者で天然色素の構造研究で功績を挙げた黒田チカなど近代化日本の礎を築いた人物を数多く輩出しています。博覧会会場では大きく三つ(①幕末維新記念館、②リアル弘道館、③葉隠みらい館)の3会場を見て回ります。

多くの皆様の参加をよろしくお願
いします。

記

日 時 2018年11月17日(木)

集合時間 午前8時30分

集合場所 市役所本庁(玄関前)

行 先 さが幕末維新博覧会

と佐賀の名湯温泉

参加費 4,000円

第1次締め切り日 10月31日(水)

この時点で34名以下であれば中止します。

最終締め切り日 11月9日(金)

*申し込みキャンセルについては、出発日の1日前は50%、当日キャンセルは全額負担となります。

幕末維新記念館 40分

この会場では4つのテーマで巡ります。第1場は「幕末維新」体感シアター大型スクリーンに臨場感溢れる激動の佐賀を舞台にした偉人たちの姿が現れます。

第2場は「技」からくり劇場 生のパフォーミング・アートとデジタル映像で、当時の佐賀の先進的な「技」を生み出した技術者たちの姿・形が紹介されます。

第3場は「人」賢人ラウンドシアター 明治新政府で活躍した賢人たちが一堂に会したらどんな感じだったのかをモニター連動型のラウンドシアターで再現されます。

第4場は「志」ことのは結び 参加者一人一人の未来へ繋ぐ「志」を楠の木の葉のメッセージとして記します。

リアル弘道館 30分

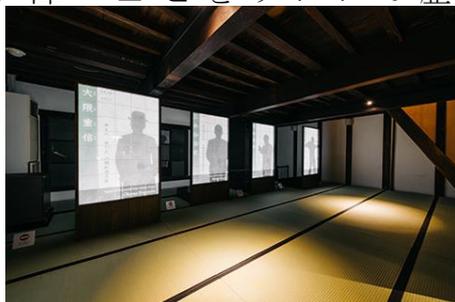
ここでは多くの優れた人材を輩出した藩校「弘道館」の学びを体験するコーナーです。パネルの中の偉人たちが語りだしたり、当時の様子をデジタル映像で再現して、弘道館の学びの一日をリアルに体験出来るよう工夫



されています。

葉隠みらい館 20分

葉隠とは、江戸時代に佐賀藩の元藩士山本常朝が語った言葉をまとめた書物で、佐賀藩の歴史に加え、武士の日頃の行いや身だしなみ、「いかによく生きるか」といった教えも書かれており多くの著名人にも影響を与えたとされます。ここでは現代に生きる「葉隠」の魅力を体感出来る様々な工夫がされており、障子に著名人のメッセージが映し出される。



博覧会は開催期間が来年1月14日までと迫っており入場者の増加も見込まれていることから移動時間を含めて3時間程ゆつくり見学したいと考えています。また、メイン会場はバスで移動しますので長く歩くことはありませんので安心して参加してください。昼食は午後1時半頃と遅めになります。昼食交流と温泉を楽しんで頂き、3時過ぎ旅館を出て途中の道の駅で休憩し、午後5時過ぎには市役所に戻ります。

(第4回セカンドライフ・セミナー報告)

先送り出来ない心配ばかり

市職労退職者の会は9月27日(木)「終活」をテーマに第4回セカンドライフ・サロンを開きました。当日は会場いっぱい約27名の皆さんが参加され、(株)彩苑の終活コンシェルジュのスライドを使った詳しい話に聞き入りました。

講話は「私から家族へのメッセージ」として(1)いざというときのために、(2)葬儀・法事についての私の希望、(3)私の親・兄弟・姉妹・親戚の記録、(4)財産・私の携帯やパソコンについてーといった順に詳しく話されました。

老後の事は「自己決定」が基本

(1)「いざというときのために」では、①介護や看護についての希望 認知症や病気がなかなかによって判断能力が無くなり、会話も難しくなるような事も考えて、自分の考えや希望を残しておくことが大事になる。誰に介護をお願いしたいのか、寝たきりになったときの介護の場所は何処が良いのか。介護費用や財産管理についてはどうするのかなど老後の事は「自己決定」が基本となりますと説明されました。②告知・延命処置などについての私の考えを残しておく、③私が加入している互助会などの内容、④私の遺言については、法律に定める方式により自筆証書や公正証書、秘密証書などがあり、遺言の有無と保管場所や作成年月日などについて説明されました。

(2) 葬儀・法事については、①葬儀方法と費用では、宗教・宗派や祭壇について伝えること、葬儀費用の準備の有無と規模などについて、最近では家族葬が過半を占めるようになってきている事が話されました。②法事・仏壇・お墓については、様々な方式があるので家族とも事前に相談して決めておくことが必要だと話されました。

エンディングノートの活用を！

(3) 財産・私の携帯やパソコンについても不動産登記簿などを整理して記録に残しておくことが重要だと話されました。財産管理については、本人でないと分からない預貯金・権利書・貸借金などの事柄も多いのでエンディングノートに整理して記入しておくことも必要になる。携帯やパソコンの記録内容などは、その取り扱いについてどのようにしてほしいか希望を残すことも必要だと話されました。参加者からは、家族葬の持ち方、遺産相続書の作成方法、樹木葬とはどういう物かなど多くの質問が出され昼食を挟んで2時間が過ぎました。

